

# 施策評価シート

幹事部局

政策企画局

|                    |  |
|--------------------|--|
| <b>施策の名称</b>       | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展   |
| <b>施策の目的</b>       | 山陰を代表する人口集積地である宍道湖・中海圏域の県内各都市や、石見地方の各都市が、それぞれの周辺を含めた地域の中核として発展し、その効果が広く波及するような地域づくりを進めます。  |
| <b>施策の現状に対する評価</b> | <p>①(地域の中核としての各都市の発展)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年の社会移動の状況は、松江市は△343人(県内+173人、県外△516人)と人口流出が進んでいるが、出雲市では+870人(県内+483人、県外+387人)となっており、一定のダム機能を果たしている。</li> <li>石見地方では、県立大学浜田キャンパスの学部改編による人材育成機能の強化等が進められているが、浜田市△392人(県内△122人、県外△270人)、益田市△184人(県内△52人、県外△132人)と、人口の流出が続いている。</li> </ul> <p>②(交通拠点の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各空港では、コロナ禍の影響で減便・運休が発生し、前年度と比較して利用者は増加しているものの、コロナ禍前と比較すると減少している。</li> <li>浜田港の貨物取扱量は寄港回数の減少や、海運混乱によるスケジュールの不安定化等の影響で減少したが、企業等訪問によるポートセールスは県内、県外共に増加した。</li> </ul> <p>③(県立インフラ等の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県立インフラ施設では、前年度と比較して来場者が増加しているものの、コロナ禍前と比較すると減少している。一部の施設では、修学旅行等学校利用が増加した。また、新型コロナ対策や利用者の安全確保、魅力向上のため施設改修等を実施し、施設の機能が向上した。</li> </ul> <p>④(県立大学の活性化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生の県内就職率は、県の人材確保育成コーディネーター等と連携して学生の県内就職に向けた支援を強化したことにより、令和3年度は49.5%まで上昇した。</li> </ul> <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍による航空需要の減に対応し、利用助成制度の拡充等を実施</li> <li>浜田港において、コンテナ航路の大口利用を誘導するための支援制度の改正</li> <li>県立大学では、高大連携の強化や、学生の県内定着の取組を拡充</li> </ul> |
| <b>今後の取組の方向性</b>   | <p>①(交通拠点の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍後の航空需要の回復に向け、関係者と連携し、効果的な利用促進策を実施すると共に、路線の維持・充実を図る。</li> <li>浜田港では、寄港回数の増加のための関係者への情報収集や大口貨物・新規貨物獲得に重点を置いた支援を検討する。</li> </ul> <p>②(県立インフラの活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各施設で進めている施設改修・展示の魅力化の成果も踏まえ、コロナ禍後の集客に向けたイベント企画や効果的な広報を行う。</li> <li>周辺施設や関係者と連携した情報発信により、県内外からの誘客を促進する。</li> </ul> <p>③(県立大学の活性化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内高校からの入学者を確保するため、入試制度改革や県内高校と連携した取組を進めるとともに、関係者に対する入試制度、学びの特色等の情報発信を強化する。</li> <li>県内就職を促進するため、県立大学の学びの特色を県内企業に理解してもらう取組や、学生が県内企業を知るためのインターンシップや企業説明会などの取組を強化していく。</li> <li>学生が「文化を学び、情報を発信する」力を身につけるため、令和5年4月に「総合文化学科」を「文化情報学科」へ変更し、地域や情報に関する教育を強化する。</li> </ul>   |



## 事務事業の一覧

| 施策の名称 |                       | Ⅲ-2-1) 牽引力のある都市部の発展        |   |                     |                     |            |
|-------|-----------------------|----------------------------|---|---------------------|---------------------|------------|
|       | 事務事業の名称               | 目的                         |   | 前年度の<br>事業費<br>(千円) | 今年度の<br>事業費<br>(千円) | 所管課名       |
|       |                       | 誰(何)を対象として                 | どういう状態を目指すのか  |                     |                     |            |
| 1     | 公立大学法人島根県立大学管理・運営支援事業 | 公立大学法人島根県立大学               | 法人が自律的運営と財務の健全性を確保し、地域に貢献する人材を輩出、地域が抱える諸課題に対する研究や教育に取り組む        | 2,193,455           | 2,173,587           | 総務部総務課     |
| 2     | 県立しまね海洋館の管理運営         | 県民及び県を訪れる人々                | 日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。          | 518,004             | 498,920             | しまね暮らし推進課  |
| 3     | 出雲縁結び空港路線維持事業         | 出雲縁結び空港の利用者                | 大都市圏をはじめとする全国各地との航空路線の維持充実を図り、利便性を向上させる。                        | 19,082              | 16,000              | 交通対策課      |
| 4     | 萩・石見空港路線維持事業          | 萩・石見空港の利用者                 | 東京線の2便運航継続など航空路線の維持充実を図り、利便性を向上させる。                             | 41,000              | 219,645             | 交通対策課      |
| 5     | 海外航空路開拓事業             | 県内への訪日外国人と渡航希望のある県民        | 国際チャーター便の運航に対して支援し、実績を積むことで将来的に国際定期便の開港を図る。                     | 7,730               | 32,600              | 交通対策課      |
| 6     | 出雲縁結び空港周辺対策事業         | 出雲縁結び空港の周辺住民               | 家屋の防音工事等を実施することにより、出雲縁結び空港の管理運営等に対する理解と協力を得る                    | 9,520               | 96,356              | 交通対策課      |
| 7     | 県立美術館事業               | 県民および来館者                   | 所蔵するコレクション及び美術館自体が県民の誇りとなり、地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する             | 346,399             | 523,383             | 文化国際課      |
| 8     | 芸術文化センター事業            | 県民及び来館者                    | 文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる                      | 467,108             | 501,631             | 文化国際課      |
| 9     | 三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業   | 県民及び県を訪れる人々                | 自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。                            | 489,492             | 589,566             | 自然環境課      |
| 10    | 県内航空路線利用促進(観光振興)事業    | 首都圏在住者を中心とした、様々な観光ニーズを持つ人々 | 航空路線(萩・石見空港)を利用して島根県に來訪する観光客の増加                                 | 57,573              | 80,184              | 観光振興課      |
| 11    | 海外展開促進支援事業            | 県内企業(全業種、特に加工食品製造業者)       | 海外への販路の拡大   | 40,652              | 46,658              | しまねブランド推進課 |
| 12    | 浜田港ポートセールス推進事業        | ・浜田港の利用企業及び利用が見込まれる企業      | ・浜田港の利用を通じた企業の競争力強化(取扱量増加を通じた企業活動の活性化)                          | 60,088              | 52,933              | しまねブランド推進課 |
| 13    | 古代出雲歴史博物館管理運営事業       | 古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々      | 島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。 | 387,885             | 484,512             | 文化財課       |
| 14    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 15    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 16    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 17    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 18    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 19    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 20    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 21    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 22    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 23    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 24    |                       |                            |   |                     |                     |            |
| 25    |                       |                            |   |                     |                     |            |

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

総務部総務課

| 事務事業の名称                |              | 公立大学法人島根県立大学管理・運営支援事業   |                |           |                      |
|------------------------|--------------|---|----------------|-----------|----------------------|
| 目的                     | 誰(何)を対象として   | 公立大学法人島根県立大学  | 事業費<br>(千円)    | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額          |
|                        | どういう状態を目指すのか | 法人が自律的運営と財務の健全性を確保し、地域に貢献する人材を輩出、地域が抱える諸課題に対する研究や教育に取り組む  |                | 2,193,455 | 2,173,587            |
|                        |              |   | うち一般財源<br>(千円) | 2,188,489 | 2,168,621            |
| 令和4年度の取組内容             |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>島根県公立大学法人評価委員会において、地方独立行政法人法第78条の2に基づき、県立大学の業務実績について、評価する</li> <li>地方独立行政法人法第42条に基づき、県立大学に対し、その運営に必要な経常経費を交付する</li> </ul>    |                |           |                      |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>県立大学では、令和4年度から、高大連携の強化や、学生の県内定着の取組を更に充実することとした</li> <li>県立大学では、令和5年4月に「総合文化学科」を「文化情報学科」へ変更し、地域や情報に関する教育を強化することとした</li> </ul> |                |           |                      |
| 1                      | 上位の施策        | Ⅵ-1-(5) 高等教育の推進   | 3              | 上位の施策     | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展 |
| 2                      | 上位の施策        | Ⅳ-1-(3) 地域を担うづくり  | 4              | 上位の施策     |                      |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |   | 年度   | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 単位 | 計上<br>分類 |
|-----------------------|---|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|----------|
| 1                     | 県立大学の業務実績に対して評価委員会が行う年度評価の評定平均値【当該年度8月時点】 | 目標値  |       | 3.0   | 3.0   | 3.0   | 3.0   | 3.0   | 点  | 単年度<br>値 |
|                       |   | 実績値  | 3.4   | 3.3   | 3.4   |       |       |       |    |          |
|                       |   | 達成率  | —     | 110.0 | 113.4 | —     | —     | —     |    |          |
| 2                     | 県立大学卒業生の県内就職率【当該年度3月時点】                   | 目標値  |       | 37.0  | 40.0  | 40.0  | 45.0  | 50.0  | %  | 単年度<br>値 |
|                       |   | 実績値  | 35.9  | 38.2  | 49.5  |       |       |       |    |          |
|                       |   | 達成率  | —     | 103.3 | 123.8 | —     | —     | —     |    |          |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験合格率 目標:100% R2実績:看護師97.6%、保健師100%、助産師100%、管理栄養士(該当なし)</li> <li>R3実績:看護師97.3%、保健師95.2%、助産師100%、管理栄養士97.7%</li> <li>就職率 目標:97.5%以上 R2実績:98.6%、R3実績:98.4%(浜田97.5%、出雲99.2%、松江98.9%)</li> <li>県内就職率 目標:50%以上 R2実績:38.2%、R3実績:49.5%(浜田24.7%、出雲56.7%、松江70.8%)</li> <li>入学者に占める県内学生の割合 目標:50%以上 R2実績:51.2%、R3実績:47.0%(浜田28.4%、出雲64.2%、松江60.3%)</li> </ul> |       |       |       |       |       |       |    |          |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>県立大学では、大学において県内高校生を対象に模擬講義を実施したり、県内高校において探求学習の指導助言をするなど、県内出身の入学生の増加に向け、高大連携の取組を拡充している。</li> <li>県立大学では、県内企業等と連携し、県内就職希望者向けの給付型奨学金制度の創設やインターンシップの拡充をしたほか、令和3年度からは商工労働部の人材確保育成コーディネーターと連携し、企業開拓や学内ミニ合同説明会を実施するなど、県内就職の促進に向けた取組を強化した</li> </ul> |
| 課題分析 | ① 課題                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>県立大学の入試制度や学部学科ごとの学びの特色などが、受験生、保護者、高校関係者、県内企業に知られていない</li> <li>県立大学の学生が、県内企業を知らない</li> </ul>  |
|      | ② 原因                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>県立大学の入試制度や学部学科ごとの学びの特色などを県民に伝える取組が不足している</li> <li>県立大学と県内企業との相互理解を深める取組や、学生と県内企業との接点が不足している</li> </ul>   |
|      | ③ 方向性                | <ul style="list-style-type: none"> <li>県立大学では、県内高校からの入学者を確保するため、入試制度改革や県内高校と連携した取組を進めるとともに、受験生、保護者や高校関係者に対し、入試制度や学びの特色などの情報提供を強化していく</li> <li>また、県内就職を促進するため、県立大学の学びの特色を県内企業に理解してもらう取組や、学生が県内企業を知るためのインターンシップや企業説明会などの取組を強化していく</li> </ul>  |



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

しまね暮らし推進課

|                        |              |  |             |           |             |
|------------------------|--------------|--|-------------|-----------|-------------|
| 事務事業の名称                |              | 県立しまね海洋館の管理運営  |             |           |             |
| 目的                     | 誰(何)を対象として   | 県民及び県を訪れる人々  | 事業費<br>(千円) | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額 |
|                        | どういう状態を目指すのか | 日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。   |             | 518,004   | 498,920     |
| 令和4年度の取組内容             |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>水生生物等の展示、調査研究、学習機会の整備、意識啓発等を行うため、指定管理者制度により施設の管理運営を実施</li> <li>施設の円滑な運営に向け、指定管理者である公益財団法人しまね海洋館との連絡調整や、老朽化した備品等の更新・修繕を実施</li> <li>感染症対策を取りつつ施設の魅力向上を図り、入館者数の回復・拡大につなげるため、屋外テント及び両生類・爬虫類コーナーの改修を実施</li> <li>施設の脱炭素化を図るためLED照明を導入</li> <li>施設の適切な管理運営につなげるため、障がい者福祉施設へ調剤業務を委託し、スタッフを確保</li> <li>特別支援学校と連携したりリモート校外学習の実施等、多様な学習の機会を提供</li> </ul> |             |           |             |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>入館者数の回復・拡大を図るため、プロジェクションマッピングやクラゲ水槽等の新たな設備を導入するとともに、主に県内及び山陽地区に向けたテレビやWEB等の活用や、関係機関との連携によりリニューアル広報を実施</li> <li>施設設備、備品の計画的な更新に加え、自動改札機の導入等により施設の感染症対策を実施</li> </ul>   |             |           |             |
| 1                      | 上位の施策        | Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用  | 3           | 上位の施策     |             |
| 2                      | 上位の施策        | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展   | 4           | 上位の施策     |             |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |                          | 年度   | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 単位 | 計上分類 |
|-----------------------|--------------------------|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 1                     | 県立しまね海洋館の入館者数【当該年度4月～3月】 | 目標値  |       | 36.2  | 36.2  | 36.2  | 36.2  | 36.2  | 万人 | 単年度値 |
|                       |                          | 実績値  | 34.6  | 20.9  | 25.4  |       |       |       |    |      |
|                       |                          | 達成率  | -     | 57.8  | 70.2  | -     | -     | -     |    |      |
| 2                     |                          | 目標値  |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |                          | 実績値  |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |                          | 達成率  | -     | -     | -     | -     | -     | -     |    |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館(休館期間:1/27~2/20(25日間))により、前々年比で1月:8,904人、2月:11,508人の減</li> <li>近隣の同感染拡大の影響を受け、入館者数が前々年比で4月:11,622人、5月:24,103人、8月:42,232人、9月:16,053人の減</li> <li>県内や近県からの修学旅行生等の受入の増 R3年度:319件 20,463名(R2年度:219件 11,852名)</li> <li>感染症対策を取りつつ、学習機会の提供として各種教育活動の受け入れや出張講話等を実施 R3年度:211件 8,062名(R2年度:148件 4,708名)</li> </ul> |       |       |       |       |       |       |    |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策として、自動改札機の導入による業務の非接触化や、アクアス独自の対応ステージの策定及びシロイルカパフォーマンスの入場予約システムの導入による密対策を実施することにより、新型コロナウイルスのクラスター等は発生していない状況</li> <li>入館者の安全確保と入館者数の回復・拡大を図るため、演出が可能な照明等の整備を含む特定天井改修工事を実施</li> <li>施設の魅力アップを図るため、プロジェクションマッピングの導入やクラゲ水槽の新設を実施</li> </ul> |
| 課題分析 | ① 課題                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>入館者数が減少傾向</li> <li>施設の魅力及び認知度の向上が不十分</li> <li>周辺団体等との一体的な取組が不十分</li> </ul>   |
|      | ② 原因                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスによる移動や外出制限の影響</li> <li>他地域で新たな水族館の開館や、リニューアルが行われており競争が激化</li> <li>施設の老朽化及び生物の管理・展示等に必要な備品等の不足</li> <li>パフォーマンス等の恒常化</li> <li>施設の認知度向上のための戦略的な広報が不十分</li> <li>周辺その他施設や団体等と連携した取組が不十分</li> </ul>  |
|      | ③ 方向性                | <ul style="list-style-type: none"> <li>施設設備の現況把握と長寿命化計画による老朽箇所の修繕</li> <li>計画的な備品等の購入・更新</li> <li>パフォーマンス等の内容進化</li> <li>公園敷地内の大規模遊具の更新等を踏まえ、周辺の資源等を活用した効果的な広報等を実施</li> </ul>   |

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

交通対策課

|                        |              |  |                |           |             |
|------------------------|--------------|--|----------------|-----------|-------------|
| 事務事業の名称                |              | 出雲縁結び空港路線維持事業  |                |           |             |
| 目的                     | 誰(何)を対象として   | 出雲縁結び空港の利用者  | 事業費<br>(千円)    | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額 |
|                        | どういう状態を目指すのか | 大都市圏をはじめとする全国各地との航空路線の維持充実を図り、利便性を向上させる。   |                | 19,082    | 16,000      |
|                        |              |  | うち一般財源<br>(千円) | 19,082    | 16,000      |
| 令和4年度の取組内容             |              | 出雲空港路線の利用者拡大を図るため、21世紀出雲空港整備利用促進協議会が実施する利用促進事業費の一部を助成する。また、利用者の利便性の向上を図るため、利用しやすいダイヤ・機材の大型化・運賃の低廉化等について、航空会社に対して要望を行う。 |                |           |             |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと |              | 新型コロナウイルス感染症による航空需要の激減に対応するため、引き続き利用促進協議会が実施する、ビジネス助成や国内チャーター便への支援を実施。   |                |           |             |
| 1                      | 上位の施策        | Ⅲ-4-(2) 空港・港湾の機能拡充と利用促進  | 3              | 上位の施策     |             |
| 2                      | 上位の施策        | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展   | 4              | 上位の施策     |             |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |                                     | 年度  | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 単位 | 計上分類 |
|-----------------------|-------------------------------------|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 1                     | 出雲縁結び空港の乗降客数(定期便の年間乗降客数)【当該年度4月～3月】 | 目標値   |       | 107.0 | 74.9  | 92.7  | 103.0 | 103.0 | 万人 | 単年度値 |
|                       |                                     | 実績値   | 99.7  | 30.7  | 43.2  |       |       |       |    |      |
|                       |                                     | 達成率   | —     | 28.7  | 57.7  | —     | —     | —     |    |      |
| 2                     |                                     | 目標値   |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |                                     | 実績値   |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |                                     | 達成率   | —     | —     | —     | —     | —     | —     |    |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |                                     | 令和3年度の出雲縁結び空港の利用者は、全体で432,260人(利用率45.4%、対前年度比140.7%)<br>各路線ごとの利用状況(人数、利用率、対前年度比)は、以下のとおり<br>東京線(254,857人、49.5%、150.5%)、大阪線(58,316人、43.3%、132.2%)、<br>福岡線(25,549人、38.7%、158.8%)、隠岐線(17,173人、53.2%、118.1%)、札幌線(1,202人、21.4%、76.9%)<br>名古屋線(43,507人、41.0%、147.3%)、静岡線(17,604人、36.7%、90.8%)、<br>仙台線(14,052人、31.9%、115.8%) |       |       |       |       |       |       |    |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | ・令和3年度も前年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、航空需要が落ち込み、利用者数は432千人余りと、前年度を上回ったものの、コロナ前のH30年度実績(1,013千人)と比べると4割程度に留まった。<br>・ビジネス助成の拡充や旅行商品の造成支援などを行ったものの、緊急事態宣言や減便等により、需要の回復には至らなかった。<br>・令和4年7月に、出雲縁結び空港開港以来初となる成田国際空港からの国内LCCによるチャーター便が運航された。 |
| 課題分析 | ① 課題                 | 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)に支障となっている点<br>①新型コロナウイルス感染症の影響により、観光、ビジネス、帰省などの航空需要が減少していることにより、減便や運休が発生しており、今後の運航状況が不透明であることから、旅行商品等の造成や利用助成等の利用促進施策が十分に取組めていない。<br>②東京線の航空運賃が、山陽側の空港と比較して高く、利用者にとって航空機が移動手段として選ばれにくい状況があり、低廉化が必要。     |
|      | ② 原因                 | ①新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言や蔓延防止措置により、外出自粛や移動自粛の要請がされ、その都度、航空需要が減少するため。<br>②首都圏とを結ぶ新幹線などの代替高速交通網がないことや、運航事業者が1社しかなく、競争による運賃低廉化のインセンティブが働きにくい状況。  |
|      | ③ 方向性                | ①新型コロナウイルス感染症の収束後の航空需要の回復に向けて、県の観光部局や地元の利用促進協議会と連携し、利用者の増加に向けて効果的な利用促進策を実施する。また、航空会社とも意見交換を行いながら必要な支援について検討し、既存路線の維持・充実を図る。<br>②利用者にとって、航空路線が選ばれるよう、東京線の航空運賃の見直しを地元協議会と連携して、航空会社へ引き続き強く要望していく。また、成田空港からの国内LCC誘致により、運賃の低廉化を図る。      |

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

交通対策課

|                       |   |                                     |                |           |             |
|-----------------------|---|-------------------------------------|----------------|-----------|-------------|
| 事務事業の名称               |   | 萩・石見空港路線維持事業                        |                |           |             |
| 目的                    | 誰(何)を対象として  | 萩・石見空港の利用者                          | 事業費<br>(千円)    | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額 |
|                       | どういう状態を目指すのか  | 東京線の2便運航継続など航空路線の維持充実を図り、利便性を向上させる。 |                | 41,000    | 219,645     |
|                       |   |                                     | うち一般財源<br>(千円) | 37,445    | 206,315     |
| 令和4年度の取組内容            | ○萩・石見空港路線の利用者拡大を図るため、萩・石見空港利用拡大促進協議会が実施する利用促進事業費の一部を助成する<br>○東京線2便運航継続のため、令和5年春に予定されている羽田発着枠政策コンテストの中間評価に向けて、関係機関と連携して利用促進の取組を実施する                              |                                     |                |           |             |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直した点 | コロナ禍による利用減少への対応及び新たな需要創出のため、以下の取組を実施した<br>○関係人口の拡大・創出やコロナ禍に対応した利用の創出のための利用助成制度を創設<br>○イン・アウト及び個人・団体への利用助成額の上乗せを通年で実施<br>○首都圏等に向けたSNS広報等や地元向けのテレビ広告など、従来にない広報を実施 |                                     |                |           |             |
| 1                     | 上位の施策   | Ⅲ-4-1(2) 空港・港湾の機能拡充と利用促進            | 3              | 上位の施策     |             |
| 2                     | 上位の施策   | Ⅲ-2-1(1) 牽引力のある都市部の発展               | 4              | 上位の施策     |             |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |  | 年度  | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 単位 | 計上分類 |
|-----------------------|--|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 1                     | 萩・石見空港の乗降客数(定期便の年間乗降客数)<br>【当該年度4月～3月】 | 目標値   |       | 15.1  | 10.6  | 13.7  | 15.3  | 15.4  | 万人 | 単年度値 |
|                       |  | 実績値   | 14.3  | 2.5   | 3.7   |       |       |       |    |      |
|                       |  | 達成率   | —     | 16.6  | 35.0  | —     | —     | —     |    |      |
| 2                     |  | 目標値   |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |  | 実績値   |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |  | 達成率   | —     | —     | —     | —     | —     | —     |    |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |  | ○令和3年度は、利用者数計が36,599人(前年度比148.9%)、利用率は28.4%<br>○東京線・大阪線ともに、利用者数・利用率とも令和2年度を上回ったが、コロナの影響に伴う航空需要の減少と一部連休によって、令和元年度の水準を大きく下回っている<br>○東京線は、利用者が36,172人(前年度比148.6%)、利用率は28.5%<br>○羽田発着枠政策コンテストの結果、令和5年3月まで決定した2便運航継続は、コロナの影響により令和5年10月までの延長が決定<br>○大阪線は、利用者が427人(前年度比172.2%)、利用率は20.6%<br>○令和3年7月31日から8月16日までの季節運航が実施された |       |       |       |       |       |       |    |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | ○東京線は令和5年10月までの2便運航が決定しているほか、令和2年夏ダイヤから第1便の発着時間が約2時間早まり、目的地での滞在時間が延びるなど利便性が向上している<br>○東京線の利用者は、令和2年度の24,337人から令和3年度には36,172人に増加<br>○東京線の運航率(コロナによる減便後の計画ベース)は、令和2年度の47.5%から令和3年度には58.6%に向上                                |
| 課題分析 | ① 課題                 | 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点<br>[A]利用の低迷<br>[B]運航率が低い<br>[C]東京線の2便運航が、期間限定となっている  |
|      | ② 原因                 | 上記①(課題)が発生している原因<br>[A]コロナの影響による航空需要の減少<br>[B]コロナの影響による航空需要の減少・不透明<br>[C]東京線の2便運航が、羽田発着枠政策コンテストによる期間限定の配分となっている   |
|      | ③ 方向性                | 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性<br>[A]アフターコロナ・ウィズコロナを見据えた安定した需要を創出・維持するため、関係人口拡大に繋がる利用促進や首都圏向け広報拡充などの取組を行う<br>[B]上記[A]を行うとともに、航空会社への働きかけを行う<br>[C]上記[A]を行うとともに、代替高速交通機関が未整備な地域に対する特別な配慮と羽田発着枠政策コンテストによって配分された発着枠の使用期間の延長を国へ要望する |



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

交通対策課

|                        |              |  |                |           |             |
|------------------------|--------------|--|----------------|-----------|-------------|
| 事務事業の名称                |              | 海外航空路開拓事業  |                |           |             |
| 目的                     | 誰(何)を対象として   | 県内への訪日外国人と渡航希望のある県民  | 事業費<br>(千円)    | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額 |
|                        | どういう状態を目指すのか | 国際チャーター便の運航に対して支援し、実績を積みこことで将来的に国際定期便の開設を図る。   |                | 7,730     | 32,600      |
|                        |              |  | うち一般財源<br>(千円) | 7,730     | 32,600      |
| 令和4年度の取組内容             |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県(観光振興課)がインバウンド対策として重点地域としている台湾、韓国、香港、タイ、フランスのうち、台湾を中心に航空会社や旅行会社への働きかけを引き続き実施する。</li> <li>・国際定期便へのステップとしての国際連続チャーター便の誘致に取り組む。</li> </ul> |                |           |             |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと |              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興課と連携した海外の航空会社や旅行会社への積極的な誘致を行う。</li> <li>・海外の航空会社と連携したプロモーション等を実施する。</li> </ul>   |                |           |             |
| 1                      | 上位の施策        | Ⅲ-4-(2) 空港・港湾の機能拡充と利用促進  | 3              | 上位の施策     |             |
| 2                      | 上位の施策        | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展   | 4              | 上位の施策     |             |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |                               | 年度  | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 単位 | 計上分類 |
|-----------------------|-------------------------------|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 1                     | インバウンド国際チャーター便運航回数【当該年度4月～3月】 | 目標値   |       | 22.0  | 4.0   | 10.0  | 16.0  | 22.0  | 回  | 単年度値 |
|                       |                               | 実績値   | 18.0  | 0.0   | 0.0   |       |       |       |    |      |
|                       |                               | 達成率   | —     | —     | —     | —     | —     | —     |    |      |
| 2                     |                               | 目標値   |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |                               | 実績値   |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |                               | 達成率   | —     | —     | —     | —     | —     | —     |    |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド国際チャーター便運航回数は、平成25年度から制度を開設し助成している。</li> <li>・令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンド国際チャーター便の運航はなかった。</li> </ul> |       |       |       |       |       |       |    |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |   |   |
|------|----------------------|---|---|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、現時点ではインバウンド国際チャーター便の運航の予定はないが、渡航規制により現地に赴いて誘致活動をすることはできなくなっている中、令和3年度は航空会社と連携した県の観光・物産に係るPRイベントの実施やオンライン会議等を通して働きかけを継続的に行い、県の認知度向上を図るとともに、航空会社や旅行会社との関係を維持することができた。</li> </ul> |   |
| 課題分析 | ① 課題                 | 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために支障となっている点)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際定期便へのステップとしての国際連続チャーター便の運航が少ない。</li> </ul>  |
|      | ② 原因                 | 上記①(課題)が発生している原因  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外において、観光資源の多い島根県の認知度が低いこと。</li> <li>・海外の航空会社や旅行会社への支援制度の周知不足。</li> </ul>   |
|      | ③ 方向性                | 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興課と連携した海外の航空会社や旅行会社へのTV会議など通じた積極的な誘致。</li> <li>・航空会社と連携した島根県のPR事業の実施。</li> <li>・航空会社の代理店と定期的な意見交換の実施。</li> </ul> |

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

|     |       |
|-----|-------|
| 担当課 | 交通対策課 |
|-----|-------|

|                        |   |  |             |                |             |
|------------------------|---|--|-------------|----------------|-------------|
| 事務事業の名称                |   | 出雲縁結び空港周辺対策事業                                |             |                |             |
| 目的                     | 誰(何)を対象として  | 出雲縁結び空港の周辺住民                                 | 事業費<br>(千円) | 令和3年度の実績額      | 令和4年度の当初予算額 |
|                        | どういう状態を目指すのか  | 家屋の防音工事等を実施することにより、出雲縁結び空港の管理運営等に対する理解と協力を得る |             | うち一般財源<br>(千円) | 9,520       |
| 令和4年度の取組内容             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港周辺住民で構成される出雲空港周辺対策協議会に対し、運用時間の延長及び発着枠の拡大に関して理解を得られるよう、協議を引き続き実施</li> <li>・出雲縁結び空港利便性向上取組推進事業:協議申し入れの条件の一つである家屋移転について、空港周辺住民との協議を実施</li> <li>・住宅騒音防止工事更新事業:空港周辺家屋に対し計画的に実施(R4:住宅騒音防止更新工事3軒、調査設計8軒)</li> <li>・出雲空港周辺対策交付金:空港周辺の環境改善や地域振興、空港の円滑な運営に資するための事業に交付</li> <li>・空調機器機能回復事業:空港周辺家屋に対し計画的に実施(R4:155戸、255台)</li> </ul> |  |             |                |             |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元との信頼関係を構築・向上させるため、前年度に引き続き出雲空港周辺対策協議会の各種会議へ県庁から毎回参加し、地元意見や要望等を速やかに汲み上げ、航空会社へも働きかけるなど関係課で連携して対応している。</li> </ul>  |  |             |                |             |
| 1                      | 上位の施策   | Ⅲ-4-(2) 空港・港湾の機能拡充と利用促進                      | 3           | 上位の施策          |             |
| 2                      | 上位の施策   | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展                         | 4           | 上位の施策          |             |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |  | 年度   | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 単位 | 計上分類 |
|-----------------------|--|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 1                     | 出雲縁結び空港の騒音防止区域及び適用範囲区域内において騒音防止対策が施された住宅数【当該年度4月～3月】 | 目標値  |       | 1.0   | 3.0   | 3.0   | 6.0   | 1.0   | 件  | 単年度値 |
|                       |  | 実績値  |       | —     | 1.0   | 1.0   |       |       |    |      |
|                       |  | 達成率  |       | —     | 100.0 | 33.4  | —     | —     |    |      |
| 2                     |  | 目標値  |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |  | 実績値  |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |  | 達成率  |       | —     | —     | —     | —     | —     |    |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅騒音防止工事更新事業(事業主体:出雲市) H15～R3実施戸数:266戸</li> <li>・空調機器更新事業(第3回目)(事業主体:出雲市) H24～26実施戸数(台数):322戸(500台)</li> <li>・出雲空港周辺対策協議会会議等参加回数 R3:24回(総会:1回、代議員会:1回、代表代議員会:10回、役員会:12回)</li> </ul> |       |       |       |       |       |       |    |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |   |  |
|------|----------------------|---|--|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅騒音防止工事更新事業は計画どおりの工事を着実に実施。</li> <li>・令和4年5月に運用時間の1時間延長と発着枠の10便拡大について、空港周辺住民の合意が得られた。</li> </ul> |  |
| 課題分析 | ① 課題                 | 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために支障となっている点)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出雲空港が原因となる騒音等が恒常的に発生し、空港周辺住民の負担増や感情の悪化を招いている。</li> </ul>   |
|      | ② 原因                 | 上記①(課題)が発生している原因  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・航空機の運航、運用時間外の離着陸、夜間工事、冬季の早朝除雪など空港として必要な行為・作業が欠かせないが、空港周辺住民にとっては迷惑なものである。</li> <li>・過去には航空機の滑走路逸脱が発生し住民不安を招いた事例があったほか、空港利用者(車両)の空港周辺農道等の通過、空港から溢れた雨水の田畑流入など、空港の立地に起因する生活環境の悪化がある。</li> </ul>                  |
|      | ③ 方向性                | 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の住宅騒音防止更新工事事業を計画に基づき確実に実施することや、出雲空港周辺対策協議会の各種会議に参加し、情報提供や意見交換を引き続き行うことにより、空港周辺住民による県への信頼向上と空港運営に対する理解・協力を働きかける。</li> <li>・運用時間の延長及び発着枠拡大について、令和8年度の運用開始という目標の達成に向けて、引き続き地元住民に対して、誠意を持って取り組んでいく。</li> </ul> |

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

|                        |  |   |             |           |                     |
|------------------------|--|---|-------------|-----------|---------------------|
| 事務事業の名称                |  | 県立美術館事業   |             |           |                     |
| 目的                     | 誰(何)を対象として   | 県民および来館者  | 事業費<br>(千円) | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額         |
|                        | どういう状態を目指すのか   | 所蔵するコレクション及び美術館自体が県民の誇りとなり、地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する |             | 346,399   | 523,383             |
| 令和4年度の取組内容             | 所蔵コレクションの価値の高さと次世代顧客である子ども・親子の重要性を再認識し、新たな取り組みを行う。毎日10:00～12:00を「かぞくの時間」として子どもと一緒に作品鑑賞を楽しむ環境づくりを行い、また、リニューアルしたキッズライブラリーも活用することで親子向けの利用促進を図る。島根創生を進めるための新規・拡充施策として「北斎プロジェクト」をスタートし、所蔵する北斎コレクションについて適正な整理・保存や展示の魅力アップ、周知広報等を行う。魅力ある企画展についても引き続き実施し、企画展・コレクション展両方で集客できる美術館を目指す。 |   |             |           |                     |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと | 北斎コレクションを始め優れた県美コレクションの認知度を上げるため、PR手法を見直し、積極的なPRを行うこととした。かぞくの時間を拡充し、子供たちが美術館及び美術鑑賞に親しめるような環境整備を行った。  |   |             |           |                     |
| 1                      | 上位の施策  | Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興                                     | 3           | 上位の施策     | Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり |
| 2                      | 上位の施策  | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展                                | 4           | 上位の施策     |                     |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |                                   | 年度   | 令和元年度     | 令和2年度     | 令和3年度    | 令和4年度     | 令和5年度     | 令和6年度     | 単位 | 計上分類 |
|-----------------------|-----------------------------------|--|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|----|------|
| 1                     | 県立美術館入館者数【当該年度4月～3月】※R3年度は施設整備を実施 | 目標値  |           | 250,000.0 | 20,000.0 | 250,000.0 | 250,000.0 | 250,000.0 | 人  | 単年度値 |
|                       |                                   | 実績値  | 268,616.0 | 103,564.0 | 15,655.0 |           |           |           |    |      |
|                       |                                   | 達成率  | —         | 41.5      | 78.3     | —         | —         | —         |    |      |
| 2                     |                                   | 目標値  |           |           |          |           |           |           |    | %    |
|                       |                                   | 実績値  |           |           |          |           |           |           |    |      |
|                       |                                   | 達成率  | —         | —         | —        | —         | —         | —         |    |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改修のため、R3年度の開館期間は4/1～5/31の2ヶ月間であった。(企画展は1本のみ、4/2～5/24開催)</li> <li>・感染症対策として日時指定予約システムを採用するとともに、入館口の制限を行った。</li> <li>・企画展は目標7,700人に対して実績7,603人であった。(目標進捗率約99%)</li> <li>・館外におけるワークショップの実施(計73回、のべ参加者数5,859名)</li> </ul> |           |           |          |           |           |           |    |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・休館期間中にショッピングモール・公共施設・児童クラブ等で北斎コレクション出張ワークショップ、アウトリーチ活動を数多く実施し、これまで美術館と接点が無かった層に対するPRの強化に繋がっている。(ワークショップ等は計73回実施、参加者はのべ5,859名)</li> <li>・公式ホームページをリニューアルし、所蔵コレクションの魅力美しい画像で紹介することにより、コレクション周知に努めている。</li> <li>・新たに3点の美術品(近世絵画)を購入したほか、作品14点と資料2点の寄贈の受け入れにより、コレクションの充実を図っている。</li> </ul> |
| 課題分析 | ① 課題                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点</li> <li>・休館前のコレクション展の観覧率は企画展と比較して低い(観覧率=観覧者数÷入館者数 : 企画展48.6%、コレクション展28.4%)</li> <li>・R3年度の企画展では来館者は50代以上が約8割を占めており、40代以下の来館者が少ない。</li> <li>・コロナ禍前、長期休館前の来館者数への回復が見通せない。</li> </ul>   |
|      | ② 原因                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コレクションに対する県民の認知度が低い。</li> <li>・常設展示室(コレクション展示)への誘導、PRが不足している。</li> <li>・長引くコロナ禍により、県民の来訪意欲の低下と県外からの集客に向けた積極的なPRができていない。</li> <li>・開館からの年数経過で美術館自体の目新しさ、来館につながるきっかけが少なくなっている。</li> </ul>  |
|      | ③ 方向性                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵コレクション(特に北斎作品)の価値の高さと魅力について広報を強化する。</li> <li>・企画展観覧者(1階)を常設展示室(2階)へ誘導するため、館内設備(サイネージ等)を積極的に活用する。</li> <li>・子ども・親子に向けた取組やサービスが拡充されていることをPRすることにより親子客の利用増を図る。</li> <li>・観光部局との連携により、アフターコロナを見据えた誘客対策を実施する。(北斎コレクションをフックとした集客対策、県外向けPR)</li> </ul>                                      |

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

|                        |  |  |                |           |                     |
|------------------------|--|--|----------------|-----------|---------------------|
| 事務事業の名称                |  | 芸術文化センター事業                                 |                |           |                     |
| 目的                     | 誰(何)を対象として   | 県民及び来館者                                    | 事業費<br>(千円)    | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額         |
|                        | どういう状態を目指すのか   | 文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる |                | 467,108   | 501,631             |
|                        |  |  | うち一般財源<br>(千円) | 208,730   | 277,848             |
| 令和4年度の取組内容             | 特定天井改修等の工事のためホール等一部の施設が休館となっているが、美術館においては引き続き地域住民及び観光客等の集客が図られるよう、魅力ある事業を実施する。 |  |                |           |                     |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと | ・アウトリーチ事業や、美術館と劇場の共同企画事業であるミュージアの継続によるホール休館影響の軽減<br>・改修工事の進捗状況発信の実施            |  |                |           |                     |
| 1                      | 上位の施策  | Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興                            | 3              | 上位の施策     | Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり |
| 2                      | 上位の施策  | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展                       | 4              | 上位の施策     |                     |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |  | 年度   | 令和元年度     | 令和2年度     | 令和3年度     | 令和4年度    | 令和5年度     | 令和6年度     | 単位 | 計上<br>分類 |
|-----------------------|--|--|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|----|----------|
| 1                     | 芸術文化センター入館者数【当該年度4月～3月】※R3～4年度は施設整備の予定 | 目標値  |           | 350,000.0 | 210,000.0 | 70,000.0 | 350,000.0 | 350,000.0 | 人  | 単年度<br>値 |
|                       |  | 実績値  | 368,334.0 | 155,515.0 | 195,206.0 |          |           |           |    |          |
|                       |  | 達成率  | —         | 44.5      | 93.0      | —        | —         | —         |    |          |
| 2                     |  | 目標値  |           |           |           |          |           |           |    |          |
|                       |  | 実績値  |           |           |           |          |           |           |    |          |
|                       |  | 達成率  | —         | —         | —         | —        | —         | —         |    |          |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館の企画展は4本実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により県外からの集客が見込めない時期もあり、苦戦を強いられた。</li> <li>・指定管理者による文化事業でも、19事業がコロナ影響により延期もしくは中止となった。</li> <li>・一方、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、入館者数目標は90%を超える達成率となった。</li> <li>・ボランティア団体と協働して運営を実施した。</li> <li>・島根県障がい者文化芸術活動支援センター「アートベースしまねいろ」との協働に取り組んだ。</li> </ul> |           |           |           |          |           |           |    |          |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者に安心して過ごしてもらえるよう、感染予防対策を徹底し、有事に備えた対応訓練を行った。</li> <li>・コロナ禍の中での事業実施を通じ、感染症対策をしつつ事業を実施するノウハウが蓄積され、それらを館外事業で他施設とも分かち合うことで地域文化活動実施の後押しとなっている。</li> </ul>   |
| 課題分析 | ① 課題                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏始め都市部からの来客が不安定な状況となっている。</li> <li>・美術館のコレクションの充実が進んでおらず、施設の魅力化や優れた美術品を後世に引き継ぐ使命が阻害されている。</li> <li>・文化芸術活動に取り組む人々の活動の停滞が懸念される。</li> <li>・修繕が必要な場所や設備等がかなり多く、また修繕規模も大きくなっている。</li> </ul>  |
|      | ② 原因                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により不定期に人流の制限や自粛の影響を受けてしまう。</li> <li>・限られた予算の中で、集客が多く見込める企画展を継続的に開催することが難しい。</li> <li>・美術品等取得基金について、買い戻しが事実上凍結されているため、新たな美術品の購入ができない。</li> <li>・コロナ禍によりコンサート等の発表機会の中止や延期が繰り返され、文化芸術活動に取り組む人々のモチベーション維持に支障がある。</li> <li>・開館から16年が経過し、施設、設備の性能劣化や老朽化が進行している。</li> </ul>                     |
|      | ③ 方向性                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い年代にアピールできる魅力的な企画展を実施するため、指定管理者と連携し、観覧者の増加につながるPR方法・関連イベント等を工夫していく。</li> <li>・美術品等取得基金の買戻し制度の充実等、好機に価値の高い美術品を取得できるよう環境改善を図る。</li> <li>・文化芸術活動と感染対策の両立ノウハウを館外活動でも共有し、文化活動の継続を支援する。</li> <li>・来館者の安全・快適性を確保し、魅力的な公演の誘致に繋ぐことのできる施設・設備管理を実施するため、管財課や営繕課、指定管理者と連携し、計画的に修繕や設備の更新等を行う。</li> </ul> |

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

|                        |  |                                      |                |           |             |
|------------------------|--|--------------------------------------|----------------|-----------|-------------|
| 事務事業の名称                |  | 三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業                  |                |           |             |
| 目的                     | 誰(何)を対象として   | 県民及び県を訪れる人々                          | 事業費<br>(千円)    | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額 |
|                        | どういう状態を目指すのか   | 自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。 |                | 489,492   | 589,566     |
|                        |  |                                      | うち一般財源<br>(千円) | 485,016   | 578,146     |
| 令和4年度の取組内容             | 1. 三瓶自然館及びその附属施設について、指定管理者と協力して以下の事業を実施<br>①企画展(春、夏、冬の3回)・自然観察会・天体観察会の開催<br>②各種イベントを通じて自然に対する理解を深める取組の実施 ③島根県の自然系博物館としての調査研究<br>④各種広報活動(PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など) ⑤三瓶自然館及びその附属施設の整備と維持管理<br>2. 小豆原埋没林の保存対策と集客増<br>①ガイダンス棟を活用した集客増対策 ②展示棟外の保存対策工事 ③保存状態のモニタリング |                                      |                |           |             |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと | ・三瓶自然館の誘客対策として、人気の高い設備であるビジュアルドームの映射機等の改修を事業化し、鑑賞環境の向上を図る  |                                      |                |           |             |
| 1                      | 上位の施策  | Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用                | 3              | 上位の施策     |             |
| 2                      | 上位の施策  | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展                 | 4              | 上位の施策     |             |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |                                    | 年度   | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 単位 | 計上分類 |
|-----------------------|------------------------------------|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 1                     | 三瓶自然館サヒメル及び小豆原埋没林公園入館者数【当該年度4月～3月】 | 目標値  |       | 162.0 | 162.0 | 162.0 | 162.0 | 162.0 | 千人 | 単年度値 |
|                       |                                    | 実績値  | 100.9 | 95.8  | 144.6 |       |       |       |    |      |
|                       |                                    | 達成率  | —     | 59.2  | 89.3  | —     | —     | —     |    |      |
| 2                     |                                    | 目標値  |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |                                    | 実績値  |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |                                    | 達成率  | —     | —     | —     | —     | —     | —     |    |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |                                    | ・ガイダンス施設の改修工事により、令和4年2月21日から3月11日まで埋没林公園を休館<br>・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和4年1月27日から2月20日まで三瓶自然館及び埋没林公園を休館 |       |       |       |       |       |       |    |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | ・三瓶自然館開館30周年特別企画展を実施したところ、大変好評で前年度に比べ来館者が大きく増加した。<br>・ビジュアルドームのスクリーンや座席等の更新、聴覚障がい者用字幕対応システムの導入を行い、視聴環境の向上を図った。<br>・埋没林公園のガイダンス施設の展示内容を更新するとともに、展示棟に大型映像を導入し、埋没林の価値をわかりやすく伝えるように展示内容の強化を行った。 |
| 課題分析 | ①課題                  | ・冬期や企画展を実施しない期間の来場者数が少ない。<br>・外国人の施設利用が少ない。また、埋没林公園は低年齢層の来館者数が少ない。<br>・埋没林の学術的価値が十分に伝えられていない。   |
|      | ②原因                  | ・展示施設等の改修を行ったばかりであり、施設の魅力アップについて十分に周知が図られていない。  |
|      | ③方向性                 | ・指定管理者と連携し、リニューアルした展示施設等を活用しながら、多言語化を図った、島根の自然を分かりやすく解説する施設として来館者の増加に向けて取り組む。<br>・施設の特徴、魅力を十分に伝えるため、ホームページやSNS・メディア等を活用した広報の強化、観光協会等と連携したPRを行い、新規利用者の増加を図る。                                 |

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

観光振興課

|                        |   |                                |                |           |                        |
|------------------------|---|--------------------------------|----------------|-----------|------------------------|
| 事務事業の名称                |   | 県内航空路線利用促進(観光振興)事業             |                |           |                        |
| 目的                     | 誰(何)を対象として  | 首都圏在住者を中心とした、様々な観光ニーズを持つ人々     | 事業費<br>(千円)    | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額            |
|                        | どういう状態を目指すのか  | 航空路線(萩・石見空港)を利用して島根県に訪れる観光客の増加 |                | 57,573    | 80,184                 |
|                        |   |                                | うち一般財源<br>(千円) | 47,236    | 78,684                 |
| 令和4年度の取組内容             | 萩・石見空港の東京線2便化を活用した観光誘客や、石見地域の観光魅力づくりの推進<br>・ウィズコロナ・アフターコロナ期の需要に応じた、個人向けの旅行商品造成支援や企業等による受注型団体旅行の誘致<br>・個人客対象のレンタカー助成や観光地を巡る周遊バスの運行による石見地域における周遊の促進<br>・石見地域の伝統文化や自然、食等の観光素材について、Webやパンフレット等の媒体を用いた広域での情報発信 |                                |                |           |                        |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと | ウィズコロナ・アフターコロナ期の需要を鑑み、個人客への誘客促進及び情報発信を強化  |                                |                |           |                        |
| 1                      | 上位の施策   | I-2-(2) 観光の振興                  | 3              | 上位の施策     | III-2-(1) 牽引力のある都市部の発展 |
| 2                      | 上位の施策   | III-4-(2) 空港・港湾の機能拡充と利用促進      | 4              | 上位の施策     |                        |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |  | 年度   | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 単位 | 計上分類 |
|-----------------------|--|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 1                     | 萩・石見空港の乗降客数(定期便の年間乗降客数)<br>【当該年度4月～3月】 | 目標値  |       | 15.1  | 10.6  | 13.7  | 15.3  | 15.4  | 万人 | 単年度値 |
|                       |  | 実績値  | 14.3  | 2.5   | 3.7   |       |       |       |    |      |
|                       |  | 達成率  | —     | 16.6  | 35.0  | —     | —     | —     |    |      |
| 2                     |  | 目標値  |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |  | 実績値  |       |       |       |       |       |       |    |      |
|                       |  | 達成率  | —     | —     | —     | —     | —     | —     |    |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |  | 新型コロナウイルス感染症の影響による減便や団体旅行の中止等により、搭乗実績36,599席<br><全体>アウト・インともに、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前年度と同様に令和元年度に比べると低調<br><観光分>個人客向けにレンタカー助成やインセンティブ助成などの対策を行い、団体客向けにも旅行会社への商品造成や販売活動を働きかけたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度と同様に令和元年度に比べると低調 |       |       |       |       |       |       |    |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |   |
|------|----------------------|---|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | ・新型コロナウイルス感染収束後に向けて、旅行会社やメディア向けのPR素材をリバイスし、より効果的なプロモーションを実施<br>・ウィズコロナ・アフターコロナ期の需要を鑑み、個人客に向けた観光地等を紹介する特集サイトを作成<br>・日本海絶景めぐりバスの運行やレンタカー助成を実施し、観光客の2次交通の利便性を向上  |
| 課題分析 | ① 課題                 | ・新型コロナウイルス感染症の影響により、首都圏等の旅行会社と連携した個人客の集客が低調<br>・出雲地域と比較して、石見地域の首都圏等に対する情報発信量が少ない<br>・各観光地を巡るための2次交通が脆弱  |
|      | ② 原因                 | ・個人客向けに石見地域の特性を活かした旅行商品が少ない<br>・メディアに取り上げられるような観光素材が乏しいことに加え、市町等との連携した素材の磨き上げや情報発信が不足している   |
|      | ③ 方向性                | ・日本遺産等の石見地域の特性を活かした旅行商品造成支援を行い、旅行の行き先として選んでもらえる魅力的な旅行商品の拡充を図る<br>・市町等と連携し、石見地域の新規オープン施設やリニューアル施設の情報を特集サイト等に掲載することで情報発信を強化<br>・石見ぶらり手形や神楽めしクーポンといったサービスや魅力的な旅行商品等をSNSなど効果的なメディアを活用して情報発信を行い、認知度の向上を図る<br>・日本海絶景めぐりバスの運行、レンタカー助成等の2次交通対策を継続して実施 |

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

しまねブランド推進課

| 事務事業の名称                |   | 海外展開促進支援事業             |                |           |                           |
|------------------------|---|------------------------|----------------|-----------|---------------------------|
| 目的                     | 誰(何)を対象として  | 県内企業(全業種、特に加工食品製造業者)   | 事業費<br>(千円)    | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額               |
|                        | どういう状態を目指すのか  | 海外への販路の開拓・拡大           |                | 40,652    | 46,658                    |
|                        |   |                        | うち一般財源<br>(千円) | 40,652    | 36,669                    |
| 令和4年度の取組内容             | 海外市場で稼ぐ県内企業の増加に向け、海外取引の拡大に意欲を持つ県内企業の自立的な取組を支援する。<br>・関係機関と連携した県内企業の支援:しまね産業振興財団、ジェトロ島根、境港貿易振興会を通じた企業支援活動を実施<br>・食品輸出販路開拓支援:欧米・アセアン等の有望市場向けの商談会開催、海外でのしまねフェアの開催<br>・非日系小売店参入支援:セミナー等を通じ企業人材育成、非日系市場向け販路開拓支援、ジェトロ島根委託<br>・EC販売支援:オンラインストア、国内商社と連携したWEB上でのPR記事掲載 |                        |                |           |                           |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと | コロナ禍における食品輸出支援策として、米国向けEC販売支援を継続するとともに、ウェブを活用した商談会の開催、輸出商社と連携したテスト販売など、海外渡航しなくても実施できる、新規商流開拓のための支援策を強化した。   |                        |                |           |                           |
| 1                      | 上位の施策   | I-2-(3) 地域資源を活かした産業の振興 | 3              | 上位の施策     | III-4-(2) 空港・港湾の機能拡充と利用促進 |
| 2                      | 上位の施策   | I-2-(1) ものづくり・IT産業の振興  | 4              | 上位の施策     | III-2-(1) 牽引力のある都市部の発展    |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |                                 | 年度   | 令和元年度   | 令和2年度   | 令和3年度   | 令和4年度   | 令和5年度   | 令和6年度   | 単位  | 計上分類 |
|-----------------------|---------------------------------|--|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|------|
| 1                     | 貿易実績企業数【前年度1月～当該年度12月】          | 目標値  |         | 226.0   | 228.0   | 230.0   | 232.0   | 234.0   | 社   | 単年度値 |
|                       |                                 | 実績値  | 224.0   | 228.0   | 230.0   |         |         |         |     |      |
|                       |                                 | 達成率  | —       | 100.9   | 100.9   | —       | —       |         |     |      |
| 2                     | 農林水産物・加工食品の輸出実績額【前年度1月～当該年度12月】 | 目標値  |         | 1,450.0 | 1,500.0 | 2,100.0 | 2,250.0 | 2,400.0 | 百万円 | 単年度値 |
|                       |                                 | 実績値  | 1,487.9 | 1,636.8 | 1,961.6 |         |         |         |     |      |
|                       |                                 | 達成率  | —       | 112.9   | 130.8   | —       | —       |         |     |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |                                 | ○令和3年度 しまね海外展開支援助成金実績 食品企業等採択件数7件(前年度5件)<br>○令和3年度 貿易投資相談実績 ジェトロ松江:115件(前年度213件)、<br>しまね産業振興財団:125件(前年度67件)<br>○令和3年度 ジェトロ松江の新輸出大国コンソーシアム支援企業数※個社支援 8社(前年度10社)<br>○令和3年 境港貿易実績 コンテナ貨物取扱本数:21,853本(前年21,934本) |         |         |         |         |         |         |     |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | 海外展開支援助成金、商談会開催(ウェブ開催含む)によるマッチング支援、各支援機関による伴走型個社支援等の取組の結果、コロナ禍が継続する中においても、新たに輸出に取り組む企業が現れ、また、輸出額を伸ばす企業が増加した。<br><br>(取組以外の改善状況)<br>組織改変により、海外展開支援室が設置され、海外展開支援体制が強化された(R2年4月)。<br>海外展開支援室、ジェトロ松江、しまね産業振興財団の共同事務所化が実現し、ワンストップサービスが可能となった(R3年4月)。  |
| 課題分析 | ① 課題                 | 上記の成果はあるものの、新たに輸出を志向する企業や海外販路をさらに拡大しようとする企業が大きく増えていない状況である。  |
|      | ② 原因                 | 上記①(課題)が発生している原因<br>・海外販路開拓・拡大には様々なリスクを伴うことから、関心を持ちながらも実際の取組を躊躇する企業が多い。<br>・新型コロナウイルスの影響により、商談や展示会参加のための渡航が困難な状況が続いている。<br>(一方、近い将来海外渡航が可能になることを想定すると、今後は海外での販路開拓・拡大が必要になってくるので、その対応も要検討。)   |
|      | ③ 方向性                | 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性<br>・海外販路開拓・拡大に関心を持つ企業に対し、県・島根産業振興財団・ジェトロ島根が連携し、その初期段階から発展段階まできめ細やかな支援を講じる。<br>・コロナ禍における食品輸出支援策として、EC販売に取り組む企業向け支援、ウェブを活用した商談会の開催、輸出商社と連携したテスト販売など、海外渡航しなくても実施できる、新規商流開拓のための支援に引き続き力をいれる。<br>・コロナ後を見据え、対面での商談機会の提供を増やし、また、渡航を伴う海外販路開拓・拡大活動の増加に向け、徐々に施策転換を図っていく。 |

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 しまねブランド推進課

|                        |  |  |                |           |             |
|------------------------|--|--|----------------|-----------|-------------|
| 事務事業の名称                |  | 浜田港ポートセールス推進事業                             |                |           |             |
| 目的                     | 誰(何)を対象として   | ・浜田港の利用企業及び利用が見込まれる企業                      | 事業費<br>(千円)    | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額 |
|                        | どういう状態を目指すのか   | ・浜田港の利用を通じた企業の競争力強化<br>(取扱量増加を通じた企業活動の活性化) |                | 60,088    | 52,933      |
|                        |  |  | うち一般財源<br>(千円) | 60,088    | 52,933      |
| 令和4年度の取組内容             | (浜田港の利活用促進は、県と浜田市で人員、予算を負担する浜田港振興会を主体に実施)<br>・将来の飛躍的なコンテナ貨物増加に向けて、利用企業や船会社等への提案型のポートセールス実施<br>・地理的優位性のある企業の利用促進に向けて、石見地域に集積の見られる産業を中心とした戦略的な貨物創出<br>・寄港数減少や新型コロナによる海運混乱、船運賃高騰の影響による他港への貨物流出を防ぐための支援策の構築<br>・浜田港を起点とした地域経済循環拡大に向けて、「浜田港の新しい時代の物流研究会」の取組を通じた中長期戦略の構築<br>・浜田港の認知向上に向け、ポートセミナーやエリア、業種を絞った研修会等の開催 |  |                |           |             |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと | ・コンテナ航路の大口利用に誘導するための支援制度の改正<br>・収束が見えない新型コロナウイルスの影響による船運賃高騰に対応した支援制度の継続と実態に応じた制度改正<br>・利用企業の利便性向上と地域経済循環の拡大に向けて「浜田港の新しい時代の物流研究会」設立   |  |                |           |             |
| 1                      | 上位の施策  | Ⅲ-4-(2) 空港・港湾の機能拡充と利用促進                    | 3              | 上位の施策     |             |
| 2                      | 上位の施策  | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展                       | 4              | 上位の施策     |             |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |                           | 年度  | 令和元年度   | 令和2年度   | 令和3年度   | 令和4年度   | 令和5年度   | 令和6年度   | 単位  | 計上分類 |
|-----------------------|---------------------------|---|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----|------|
| 1                     | 浜田港国際コンテナ貨物取扱量【当該年度4月～3月】 | 目標値   |         | 4,400.0 | 4,800.0 | 5,200.0 | 5,600.0 | 6,000.0 | TEU | 単年度値 |
|                       |                           | 実績値   | 4,113.0 | 4,539.0 | 3,725.0 |         |         |         |     |      |
|                       |                           | 達成率   | —       | 103.2   | 77.7    | —       | —       | —       |     |      |
| 2                     |                           | 目標値   |         |         |         |         |         |         |     | %    |
|                       |                           | 実績値   |         |         |         |         |         |         |     |      |
|                       |                           | 達成率   | —       | —       | —       | —       | —       | —       |     |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |                           | ・浜田港貿易総額:47,401百万円(対前年比155.2%)【令和3年度財務省貿易統計】<br>[うち輸出額5,226百万円(同171.6%)、輸入額42,175百万円(同153.3%)]<br>・浜田港取扱貨物総量:453,310トン(対前年比95.6%)【令和3年島根県港湾統計(速報値)】<br>[うち輸出28,633トン(同93.3%)、輸入196,056トン(112.4%)、移出69,126トン(115.1%)、移入159,495トン(76.3%)]<br>・R3.3からコンテナ船1社の運航が休止されるとともに、海運の混乱が続いているためコンテナ船の寄港回数が大幅に減少<br>[寄港回数推移 R元年度:94回、R2年度:89回、R3年度:38回] |         |         |         |         |         |         |     |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | ・浜田港国際コンテナ航路の利用実績は、R2年度まで5年連続増加していたが、R3年度は減少となった<br>[H3年度実績:3,725TEU(対前年▲814TEU、82.1%) ※TEU=20フィートコンテナ1本換算<br>・R3年度企業等訪問によるポートセールス286件(対前年比+128件) ※延べ件数<br>[うち県内185件(同+105件)、県外101件(同+23件)、海外0件(前年0)]<br>・浜田港国際定期今年航路20周年記念式典及び浜田港ポートセミナーをWEBにて開催(R4年3月)<br>[WEB参加103名、会場参加(表彰者代表、講師等)20名] ※R2年度は北広島町で開催し41名参加 |
| 課題分析 | ① 課題                 | ・これまで浜田港を利用していた貨物の一部が他港に切り替えられている。<br>・浜田港近隣で県外の港を利用している企業や貨物がある。<br>・特に県外の荷主企業や船会社へのポートセールスが十分に実施できていない。  |
|      | ② 原因                 | ・週1便化によるコンテナ船寄港回数の減少や、海運混乱によるスケジュールの不安定化。<br>・1社単独航路のため海上運賃が高止まりしている。<br>・コスト、利便性、施設等の面で荷主企業のニーズに十分に答えられていない。<br>・新型コロナウイルスの影響により、企業訪問やセミナー開催に制約がある。   |
|      | ③ 方向性                | ・海運の混乱、運賃高騰は当面続くと予想されるため、混乱収束後を見越した取り組みを実施。<br>1)支援策の周知や有効活用による貨物の他港流出食い止め<br>2)浜田港周辺の詳細な貨物分析と大口貨物、新規貨物に重点を置いた対策の検討<br>3)週2便化の復活を目指した運行中船社、休止中船社等からの情報収集<br>4)WEB等を活用した浜田港の情報発信力の向上  |



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

|     |      |
|-----|------|
| 担当課 | 文化財課 |
|-----|------|

|                        |  |   |             |           |             |
|------------------------|--|---|-------------|-----------|-------------|
| 事務事業の名称                |  | 古代出雲歴史博物館管理運営事業   |             |           |             |
| 目的                     | 誰(何)を対象として   | 古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々   | 事業費<br>(千円) | 令和3年度の実績額 | 令和4年度の当初予算額 |
|                        | どういう状態を目指すのか   | 島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。 |             | 387,885   | 484,512     |
| 令和4年度の取組内容             | <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度は、(夏)ハニワ展、(秋)出雲と吉備、(春)出雲神楽の3つの展覧会を通して、埴輪の意味やその地域差、出雲と吉備との交流・関係性、出雲神楽の歴史の変遷や役割など、これまでの研究成果を紹介展示する。</li> <li>常設展示では、保存と展示を可能とする特別な展示ケースを整備し未公開収蔵品等の公開を行う。また、芸能衣装・神楽面等展示の充実を図る。神話シアターでは、映像コンテンツ(1本)のリメイクを行い魅力アップを図る。</li> <li>交流普及事業として、企画展・特別展時における講演会・講座や出前講座・講師派遣、歴博夏祭りなど各種イベント等を実施する。</li> <li>来館者アンケートを利用しやすく快適な施設運営と効果的な広報に活用する。</li> </ul> |   |             |           |             |
| 令和3年度に行った評価を踏まえて見直したこと | <ul style="list-style-type: none"> <li>県内小中高等学校利用の促進を図るため、校長会や学校関係者、県内エージェントに直接働きかける。また県外においても、教育旅行を企画するエージェントを訪問し修学旅行の誘致活動を行い、学校利用の新規開拓及び定着化を図る。</li> <li>ホームページ充実とスマホ対応化、講演会のLive配信など利便性向上、その他効果的な情報発信により来館者増を図る。</li> </ul>   |   |             |           |             |
| 1                      | 上位の施策  | Ⅵ-4-(2) 文化財の保存・継承と活用  | 3           | 上位の施策     |             |
| 2                      | 上位の施策  | Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展  | 4           | 上位の施策     |             |

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

| KPIの名称                |                          | 年度   | 令和元年度     | 令和2年度     | 令和3年度     | 令和4年度     | 令和5年度     | 令和6年度     | 単位 | 計上分類 |
|-----------------------|--------------------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----|------|
| 1                     | 古代出雲歴史博物館入館者数【当該年度4月～3月】 | 目標値  |           | 240,000.0 | 180,000.0 | 200,000.0 | 240,000.0 | 240,000.0 | 人  | 単年度値 |
|                       |                          | 実績値  | 170,798.0 | 94,842.0  | 103,977.0 |           |           |           |    |      |
|                       |                          | 達成率  | —         | 39.6      | 57.8      | —         | —         |           |    |      |
| 2                     |                          | 目標値  |           |           |           |           |           |           |    | %    |
|                       |                          | 実績値  |           |           |           |           |           |           |    |      |
|                       |                          | 達成率  | —         | —         | —         | —         | —         |           |    |      |
| KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実 |                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナの影響を受けていない平成30年度の入館者数は、約24万人であった。令和元年度は、施設のメンテナンス事業のため、令和元年11月18日～令和2年4月23日まで休館したため、入館者数が約17万人に減少した。令和2年度～令和3年度にかけては、新型コロナの影響により来館者が減少した。特に、令和2年4月24日～5月18日の緊急事態宣言による休館と令和4年1月27日～2月20日のまん延防止重点措置による長期休館もあり、この2か年度は、入館者数が平成30年度の約4割に減少した。</li> <li>一方で小中高など学校団体は、修学旅行や遠足等での利用が増加しており、令和3年度は266校、14,896名の利用があった。</li> </ul> |           |           |           |           |           |           |    |      |

## 3 現状に対する評価

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 成果   | 「目的」の達成に向けた取組による改善状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>Instagramの運用を開始し、フェイスブックと合わせSNSでの広報・宣伝活動を充実させた。(計約5500名の方が評価)</li> <li>修学旅行・遠足の増加が見込まれるため、引き続き校長会等へのPRや、中・四国地方の主要な旅行会社にポスター・チラシ・優待券を配布する等営業活動を強化した。令和3年度は、令和2年度(177校、9890名)の約1.5倍(266校、14,896名)の学校利用があった。</li> <li>展覧会ごとに開催する講演会のLive中継配信を開始し4回実施した。</li> <li>ホテルなど宿泊施設や道の駅など交通拠点に優待割引券等配布し、誘客促進を図った。</li> <li>出雲市観光協会と連携しアニメツーリズム企画に参加。デジタルスタンプラリー等の取組で新たな客層の獲得に努めた。(アプリインストール数681件)</li> <li>観光庁の多言語解説整備支援事業により歴博の概要看板(英語翻訳)の作成やHPの主要展示の解説(英語翻訳)を行った。</li> <li>来館者数がコロナ前の平成30年度と比べると約4割に大幅減少。特に県外からの個人旅行者や募集型団体旅行者の減少が大きい。</li> </ul> |
| 課題分析 | ① 課題                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>個人 H30年度 約22万人 → R3年度 約9万人(-60%)</li> <li>団体旅行(学校除く) H30年度 約2万人 → R3年度 約2千人(-89%)</li> <li>また、コロナによる渡航制限により外国人観光客も減少</li> </ul>   |
|      | ② 原因                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大に伴い、国、各都道府県による旅行等不要不急の国内移動に対する自粛要請があった。また、国民も旅行を自粛する意識が強かった。更に当館もまん延防止重点措置による休館を行ったため来館者数が減少した。</li> <li>コロナの影響を受け、大人数が集団で移動するバス利用の団体旅行が減少した。</li> </ul>   |
|      | ③ 方向性                | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、観光旅行は個人旅行やマイカー移動へのシフトが予想されるため、InstagramやフェイスブックなどSNSを使い大社に訪れる個人やグループなどに対し、引き続き情報発信を行う。また、マイカー客を想定し引き続き、道の駅等交通拠点にポスター・チラシ・優待券の配備を働きかけるとともに、新たに中国地方管内の山陽自動車道・中国自動車道の主要なSA・PAへも働きかけPRの強化を図る。</li> <li>コロナの影響で一時的に県外からの修学旅行が増加している状況を踏まえ、コロナ後に少しでも定着するよう県外の学校や旅行会社等に向けてセールス範囲の拡大(FDAの就航先の旅行会社など)や情報発信を強化する。</li> <li>引き続き近郊の宿泊施設や観光施設でチラシ・優待券の配備などのPRにより観光客の立ち寄り率向上を図る。</li> </ul>   |